

努力賞

ボタンちゃんを読んで

荒川区立汐入東小学校四年

河野 里沙

柳田先生、こんにちは。

わたしは、「ボタンちゃん」という本を読みました。ボタンちゃんはアンナちゃんという女の子のブラウスの一番上にとまっている丸い顔の女の子です。そして、ボタンちゃんのなかよしはボタンホールちゃんです。ふたりはいつも一しょです。ところがある日、ボタンちゃんをブラウスにとめていた糸がなにかのひょうしにとれてしまいました。子どもべやのゆかをボタンちゃんはすすみます。コロコロコロ、というリズムにのって心も軽くなっています。やがてたどりついたのは、おも

ちや箱のうらがわです。するとどこからか鳴き声が聞こえてきます。泣いているのはアンナちゃん。が小さいころに使っていたガラガラでした。ほかによだれかけやホッキョクグマのぬいぐるみに会いました。ベッドの下からこがり出たところママにひろいあげられて、またアンナちゃんのブラウスにぬいつけてくれました。

ある日、おそうじのとちゅう、ガラガラやだれかけ、ホッキョクグマを見つけてかれらを「思い出の箱」にしまいました。そして、アンナちゃんはもつと大きくなってブラウスも小さすぎて入りません。「思い出の箱」にしまわれる時がきたのです。思い出の箱からみな、アンナちゃんの無事を祈っています。

やなぎだ先生は小さい時に使っていたものを

ばえていますか？

わたしは、小さいころにつかっていたものを少しだけおぼえています。これからわたしは、小さいころに使っていたものや、この先使っていくものは、ずっと大切にしていきたいです。